

地域漁業学会

会 報

【発行】

地域漁業学会 事務局
〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20
鹿児島大学水産学部内
chiikioffice@gmail.com
Tel&Fax 099-286-4280
<http://jrfs.org/>

No.86

2011年7月

一 目 次

1. 第53回大会案内 学会事務局
1) 鹿児島大会へのお誘い 2) 実施概要 3) シンポジウムの概要
2. 日韓水産研究交流セミナー 日韓交流特別委員会
3. 事務局便り 学会事務局
1) 個別報告の受付について 2) 学会賞の推薦について

1. 第53回大会案内

1) 鹿児島大会へのお誘い

おじゃったもんせ（いらっしゃいませ）！本年11月4日～6日に第53回地域漁業学会を鹿児島で開催させていただくことになりました。鹿児島県での大会は、1989年以来になります。離島県である鹿児島の特長を活かして、11月5日の土曜日に離島漁業に関するシンポジウムを開催いたします。多くの皆様と、一日かけてじっくり議論できればと考えております。11月6日の日曜午前には、個別報告を予定しております。多様な分野からの積極的な報告・議論を期待しております。

鹿児島は交通の便が悪いと思われがちですが、今年3月に九州新幹線が全線開通し、新青森駅から鹿児島中央駅まで新幹線につながりました。列車によっても違いますが最短で博多―鹿児島中央駅は1時間19分、新大阪―鹿児島中央駅は3時間45分で陸路移動出来ます。地域漁業に関する真剣な議論の合間には、格安温泉、地魚、芋や黒糖の焼酎、黒豚・黒牛等でお楽しみください。多数の参加をお待ちしております。

（鹿児島大会実行委員長・佐久間美明）

2) 実施概要

①日程

- 11月4日（金）午後各種委員会・理事会
- 11月5日（土）シンポジウム・総会・懇親会
- 11月6日（日）午前個別報告

※日曜午後は欠席せざるを得ない会員も多いため例年と土日の日程を変えてみました。11月3日は文化の日で飛び石連休になり、この春から鹿児島と福岡が新幹線で直結されたため、観光客の増加が予想されます。宿や足はお早めに確保してください。

②場所

鹿児島大学水産学部
〒890-0056 鹿児島市下荒田 4-50-20
Tel & Fax 099-286-4280（担当：佐久間）sakuma-eco@nifty.com

③参加費

参加費：2000 円（要旨集代込み。個人会員、学生会員ともに同額）

なお、非会員で要旨集希望者は 2000 円。要旨集不要者は無料。

3) シンポジウムの概要

1. テーマ

離島漁業の存立基盤の現状と課題

2. 趣旨

本シンポジウムでは離島漁業の存立基盤の現状と課題を多様な側面から明らかにすることを目的とする。

四方を海で囲まれた我が国では、かねてより豊かな海の恵みを利用して漁業生産活動が行われてきた。漁業は国民に動物性タンパク質を届ける食料供給産業、漁村はその生産基地として重要な存在であった。しかしながら 1980 年代以降、魚介類の大量輸入による価格下落、食生活の変化による魚介類消費の減少、資源状態の悪化などによって漁業経営は悪化の一途をたどっている。

なかでも離島漁業の置かれた状況は厳しい。離島周辺海域は一般に水産資源に恵まれているものの、様々な条件不利を抱えているため、漁業経営の維持・存続は容易ではない。離島漁業・漁村の衰退は、食料政策上さらには地域政策上、国民経済へ大きな負の影響を及ぼす可能性がある。離島漁業・漁村の有する社会的意義として下記の点が指摘できよう。

第 1 は食料政策上の意義である。離島漁業の生産金額は、我が国全体のおおよそ 10% を占めており、その割合はこの 25 年ほぼ一定である。2007 年の生産金額をみると、我が国の海面漁業・養殖業生産額 15,757 億円、そのうち約 10% の 1,558 億円を離島漁業が占めており、離島漁業は重要な食料供給機能を有していることが分かる。

第 2 は、地域政策上の意義である。産業に乏しい離島において、漁業が基幹産業になっているケースは少なくない。離島における第 1 次産業の生産金額は約 2,199 億円（2007 年）であるが、そのうち 70% を漁業が占める。また、離島における就業者総数は約 20.6 万人（2007 年）であるが、このうち漁業就業者が 11.9% を占め、農業とならんで就業機会を生み出す重要な産業である。つまり、離島漁業は離島経済のみならず、定住人口維持といった役割を果たしている。

第 3 は、多面的機能の維持といった意義である。水産業・漁村には食料供給という本来的機能以外に、環境保全、国民の生命財産保全機能、物質循環機能などの多面的機能を有していることが指摘されている。多面的機能は漁業生産活動と一体となって発揮される機能であり、多面的機能の維持には離島漁業の維持が欠かせない。

このように離島漁業・漁村は、食料供給機能のみならず、重要な機能・役割をもった産業・地域であり、その維持存続に向けた方策を検討することが社会的にも重要であると言えよう。

以上のような問題意識に基づき、本シンポジウムでは、離島漁業の存立基盤の現状と課題について多様な側面（政策、労働、生活、資源、販売）から議論を加えたい。

3. 構成（報告タイトルは仮題）

司会：三輪千年（水産大学校），佐々木貴文（鹿児島大学）

第1報告：鳥居享司（鹿児島大学）

主旨説明，離島漁業の現状に関する説明

第2報告：工藤貴史（東京海洋大学）

離島漁業に関する水産政策

第3報告：鹿児島県庁

鹿児島県における離島行政・政策

第4報告：大谷誠（水産大学校）

離島漁業の担い手

第5報告：鹿児島県漁連

販売条件不利の改善に向けた取り組み

2. 日韓水産研究交流セミナー

1. 実施概要案

今回の日韓水産研究交流会セミナー（2011年9月16日から19日）では、研究集会とエクスカージョンを実施予定です。研究集会は、これまでの日韓共同研究・シンポジウム等の実績をふまえながら「日本と韓国双方にとっての水産資源や水産物の価値を再確認し、双方が持続的な発展に向けた協力・連携関係を展望するにはどうすればよいのか？」という方向性で設定しております。またエクスカージョンは、韓国側のご配慮で開催地である韓国・統営市（トンヨン市）の養殖業や貿易・物流拠点の視察や韓国三大寺の一つである海印寺などの見学等も企画しており、皆さんにとって大変有意義な時間になるものと考えております。なお、参加希望やお問い合わせについては別紙を参照の上、日韓交流特別委員長の竹ノ内（e-mail：naruhito@agr.ehime-u.ac.jp TEL&FAX：089-946-9835）までお願いします。

2. 交流セミナースケジュール

2011年9月16日（金）：14時前後に韓国釜山に集合（集合場所：金海空港&釜山国際港）

－移動手段については、4. ①をご覧ください

－各集合場所から、チャーターバスで統営市（トンヨン市）に移動。ホテルに投宿。

2011年9月17日（土）：韓国 統営市（トンヨン市）ホテル会場（宿泊場所と同じ）

－9：30～16：00 日韓水産研究交流セミナー（研究交流会）

－17：00～ 懇親会

2011年9月18日（日）

－エクスカージョン：統営（トンヨン）市内・周辺の水産業・水産関連施設等の視察や観光

－エクスカージョン終了後に釜山市内に移動・宿泊（予定）

※18日の帰国予定者 →4. ②をご覧ください

2011年9月19日（月）

－現地にて解散：バスで出発場所（金海空港&釜山国際港）に移動 →4. ③をご覧ください

なお、当セミナー開催期間（9月16日から19日）は、日本では3連休となっており、昨今の韓流ブ

ームの影響から韓国への旅行者が急増することが予想されますので、航空会社、旅行代理店などにお早めにご予約などを入れておいていただくことをお勧めいたします。また宿泊は、韓国サイドで一括手配するとのことですので、日本ー韓国釜山の「移動」について各自手配いただければと思います。なお韓国入国は、韓国・釜山市での集合（＝金海空港 or 釜山国際港）の時刻を14時頃に設定しておりますので、時間的な余裕も考慮した到着便のご選択をお願いいたします。ご自身でトンヨン市までお越しの場合、自己責任にてお願いいたします。

3. 日韓水産研究交流セミナー

3. 1 研究集会

研究集会テーマ「日本と韓国の水産資源の価値とその位置づけー現状認識と展望ー」として、日本と韓国ならびに中国等を含んだ北東アジアの水産業や漁業管理の現状と資源利用に関する今後の展望を確認するとともに、両国の水産物需要をベースにした貿易・流通・加工ならびに企業行動という側面について新たに捉えてみたい。

前者については、片岡千賀之氏と金大永氏の2報告、後者については姜宗鎬氏と山下東子氏の2報告とし、漁場管理・資源利用の側面と流通・消費の側面に配慮した報告を設定しました。

<研究集会スケジュール予定>

9:30~10:00 受付

10:00~10:15 開会挨拶（両学会会長）および主旨説明

10:15~12:15 第1~第4報告（各報告30分）

12:15~13:30 昼食等休憩

13:30~14:00 コメント（日韓双方から1名ずつ15分）

14:10~16:00 総合討論

3. 2 エクスカーション

日時：2011年9月18日（日） 終日 <詳細は、後日お知らせします>

場所：韓国・統営市内（トンヨン市）・周辺地域

内容：韓国有数の養殖業や貿易・物流拠点である統営市内（トンヨン市）において、水産業や関連施設等の視察、韓国三大寺の一つである海印寺などの見学等を企画中。

4. 集合場所・移動手段など

<集合場所>

9月16日の韓国入国後の集合場所は、釜山市内の金海国際空港到着ロビー、釜山国際港到着ロビーとし、14時前後までにお集まりください。その後、韓国側が手配したチャーターバスにてトンヨン市まで移動します。集合場所では集まりやすいような配慮をする予定です。詳細は後日お知らせいたします。

<移動手段：飛行機&船：釜山・金海国際空港・釜山国際港ー日本各地>

詳細な情報はお近くの旅行代理店、航空会社などで各自ご確認ください。

①9月16日（日本各地→釜山・金海国際空港）

・飛行機（日本各地から釜山・金海空港国際線へ）

成田 → 釜山

JAL (JL957)

11:10 → 13:20

関空 → 釜山	アジアナ (OZ143)	11 : 50 → 13 : 20
	大韓航空 (KE732)	12 : 50 → 14 : 15
福岡 → 釜山	大韓航空 (KE784)	10 : 40 → 12 : 00
	エア釜山 (BX141)	11 : 20 → 12 : 15

・船 (ジェットフォイル)

福岡・博多国際港→釜山国際港	ビートル号 101 便	08 : 30 → 11 : 25
	ビートル号 113 便	10 : 00 → 12 : 55

②9月18日 (釜山・金海国際空港→日本各地 出発時刻のみ掲示)

・飛行機 (金海空港国際線からの出発時刻のみ)

釜山 → 成田	JAL (JL958)	14 : 15
釜山 → 羽田	大韓航空 (KE9715)	22 : 05
釜山 → 名古屋	大韓航空 (KE753)	13 : 00
釜山 → 関空	エア釜山 (BX122)	16 : 00
釜山 → 福岡	アジアナ (OZ138)	17 : 00
	大韓航空 (KE797)	17 : 55

・船 (ジェットフォイル)

釜山国際港→福岡・博多国際港	ビートル号 250 便	14 : 30 → 17 : 25
	ビートル号 256 便	15 : 15 → 18 : 10

③9月19日 (釜山・金海国際空港→日本各地 出発時刻のみ掲示)

・飛行機 (金海空港国際線からの出発時刻のみ)

釜山 → 成田	JAL (JL960)	08 : 00
	大韓航空 (KE715)	10 : 50
	エア釜山 (BX112)	10 : 55
	JAL (JL958)	14 : 15
釜山 → 名古屋	大韓航空 (KE753)	13 : 00
釜山 → 関空	アジアナ (OZ144)	09 : 30
	大韓航空 (KE731)	11 : 00
	エア釜山 (BX122)	16 : 00
釜山 → 福岡	大韓航空 (KE783)	09 : 15
	エア釜山 (BX142)	09 : 30
	アジアナ (OZ138)	17 : 00
	大韓航空 (KE797)	17 : 55

・船 (ジェットフォイル) : ビートル号・コビー号

釜山国際港→福岡・博多国際港	ビートル号 228 便	11 : 45 → 14 : 40
	コビー号 242 便	13 : 30 → 16 : 25
	ビートル号 246 便	14 : 00 → 16 : 55
	コビー号 250 便	14 : 30 → 17 : 25

5. 費用など

日韓水産研究交流セミナーの参加費ならびに懇親会費は、現地にて各自お支払いいただくこととなります。ただし現時点では確定しておりませんので、追ってお知らせいたします。

その他として宿泊費は、現地にて各自お支払いください。ただし、予約については韓国側が一括して手配して下さることになっております。

6. 今後の予定

現時点では、下記の流れで準備を進めます。

7月～8月	参加者の募集（各自渡航の手続き、予約など）、スケジュール確定
8月中旬	日韓水産研究交流セミナーの最終確定のお知らせ

3. 事務局便り

1) 個別報告の受付について

個別報告を希望される会員は、タイトル、報告者氏名（複数の場合は全員）、所属（同左）、要旨本文をA4用紙1枚（縦置き横書き）に収めたWindows版一太郎またはwordファイルを、メールもしくは郵送で下記へ送付してください。また原稿ファイルとは別に、報告者の読み仮名と、プロジェクター等機材使用の有無をメール本文や別紙でお知らせください。なお、メールによるファイル送付の場合は事務上の行き違いや送受信時の事故を考慮して、印刷原稿1部を下記へFaxまたは郵送してください。締切は10月7日（金）必着です。お送りいただいた原稿は報告要旨集に収録して配布・販売するほか、地域漁業学会のHP等に掲載・公表される事があります。ご了承ください。

なお、シンポジウムの報告者の方は、枚数制限はありませんが同様の内容を10月7日までに申込先まで送付してください。また、コーディネーターより指示がある場合はそちらにしたがってください。

<申込先> 〒890-0056 鹿児島市下荒田4-50-20 鹿児島大学水産学部内 地域漁業学会要旨集担当
Fax. 099-286-4280 電子メール : sakuma-eco@nifty.com

2) 学会賞の推薦について

「学会賞」、「学会奨励賞（中楯賞）」および「学会功労賞（柿本賞）」の推薦がございましたら、被推薦者の氏名、同勤務先、推薦理由、その他必要事項を文書にて、10月24日（月）必着で下記宛にお送りください。なお、締切後の推薦については学会本部事務局までお問い合わせください。事情により推薦を受け付けることもあります。

<送付先> 〒890-0056 鹿児島市下荒田4-50-20 鹿児島大学水産学部内 地域漁業学会

地 域 漁 業 学 会 <http://jrfs.org/>

本部事務局 〒890-0056 鹿児島市下荒田4-50-20
鹿児島大学水産学部内
Tel&Fax 099-286-4280
担当 佐久間美明 chiikioffice@gmail.com
郵便振替 : 01750-0-83886
銀行振込 : 鹿児島銀行 きしゃば支店 普通 834624